



発行者
文京学院大学
女子中学校
水上 茂

防災訓練で学び、感じたこと

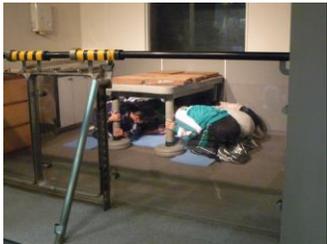
一年桃組 岩崎 柚希

今回の防災訓練で学んだこと、感じたことがあります。
一つ目は、大地震の被害が少なくすんだ地域が行っていたことについてです。被害が少なかった地域は、防災訓練を月に一回行なったり、避難生活になったときの場所の作り方などを中学生など若い人たちに教えていることがわかりました。

二つ目は、災害が起こった時に周りの人の声がけだけで大勢の人が救えるということです。その場所では学校にいた中学生が小学生や地域に住んでいるお年寄りの方を声をかけて避難所まで誘導したそうです。このように中学生が助けたということは、自分でもできるのではないかと思います、その中学生は素晴らしいと感じました。

三つ目は、他人の命を他人が救ったことです。地震で倒れた家の人が潰されていた時に、他の家の人が建物をかき分けて必死で助けようとしたことです。それを「共助」といいます。お互いを助け合うというのは素晴らしいことだと私は思います。見知らぬ人の大切な命を救うことは、とても勇気が必要です。自分の命もなくなるかもしれないのに他人の命を救うその人は、とても立派だと思いました。

このようなお話を通して、町が災害に遭ったとき、「共助」の関係で命が助かっているのだと感じました。他の人と共に暮らしているからこそできること、救える命があり、お互いに協力する解決できることがたくさんあることを学びました。また、東日本大震災・関東大震災などの大地震に耐えることができた地域は、たくさんの方の対策を立て、訓練を行っていたからこそ、本当に災害が起きたときに冷静に対応できたのだということもわかりました。被害が小さくすむのは、それなりの努力の結果であり、努力を続けてきた地域であったのだということもわかりました。



中学三年生 企業見学

清水建設

三年菊組 嶋田 楓月

大手建設会社、清水建設様へ私たちは見学へ行きました。建物を見たり、設計図を完成させるまでの行程表を見ることが好きな私には、とても楽しみにしていた見学会です。訪問して本当に楽しめました。見学で紹介された、内容を知ることがたくさんありました。いくつかあげると、本社の建物には、建設会社として様々な工夫がされていて、最新技術を扱った免震や太陽光パネル。お聞きした中で省エネ対策と

して、使用エネルギーを約九十パーセントカットしているものがあったり、社員の皆さんにも気を遣い、新しいコミュニケーションスペースとしてデスクの直ぐ近くに打ち合わせ用のテーブルがあったり、ストレスを感じさせない工夫がありました。

そして私にとって一番面白かったのは、清水建設さんの思い描く未来像や新たな構造です。一部例を挙げると、「環境アイルランド」、植物園な都市と言った考えがあります。説明を聞いたところ、これは「赤道」の地域に造るそうです。「赤道」ですから、とても暑いと思われませんが、台風が来ないという日本では考えられない場所です。他にも「深海未来都市構想」、深海を垂直に繋ぐというプランなど、とても面白いものばかりでした。

このような話を聞いても何も感じない人もいるだろうし、何かしらヒントを得る人もいると思います。私は後者でした。「見学に来たけれど、まあこんなものか」ではなく、「見学に来て、なるほど、こういうことも自分にはアリか。アレが面白そうだな」という感じでした。ただ見学しただけで自分のこれからの事が決まったわけではないですが、少しヒントとなる、とても良い機会でした。

三菱UFJ銀行

三年菊組 早川 明季

今回の企業見学で、普段あまり見ることが出来ないところをたくさん見学させて頂きました。
まず、最初に貸金庫がある部屋に案内して頂きました。貸金庫は盗まれたら困るものやお金を預ける金庫で、金庫の大きさによって年会費が違ってくるそうです。また、貸金庫を開けるには金庫を所有している人が持っている鍵と銀行員が持っている鍵を一緒に開けないと開かない仕組みになっているそうです。

次に、お金を保管している金庫に案内して頂きました。この金庫を開けられるのは銀行員の中にも限られていて、また、硬貨の枚数も毎日数えて一円でも合わないとは帰れないそうです。金庫はとても厚い扉ですが、この厚さには防犯のためだけではなく、もし社内で大変なことが発生したときに金庫の中のお金が燃えないようにするためと聞きました。

最後にATMの裏側を見せて頂きました。ATMの裏側にはコンピュータの数字でお金の金額が表示されています。その下には鍵がかかっている金庫の何かがあり、そのなかに入っているお金も毎日計算して、何かトラブルがあるとアラームがなり、セコムが来るそうです。今はATMが今まで以上に進化して、より使いやすくなっているそうです。

私は今回の企業見学でお金の大切さや仕事の大切さが分かりました。駒込支店は他の支店に比べて小さく、古いけど働いている時の気持ちや責任感が支店が大きい、小さい、新しい、古いなどは関係なく、働いている社員一人ひとりの仕事に対する気持ちや、責任感が地元の人から信頼される駒込支店を作り上げているのだと感じました。

帝国ホテル

三年桃組 金子 花美

私達は十一月七日に企業見学に行きました。たくさんの方の企業があった中で私は「帝国ホテル」に行きました。

帝国ホテルで普段は見ることができないような場所や工夫をたくさん見せて頂きました。例えば、エレベーター内の鏡にさしてある一輪のバラの意味、大統領が泊まる一泊十五万円以上する部屋や結婚式を行うチャペルを見せて頂きました。大統領が泊まる部屋には、皇居など、ホテルの周り全体を一望できるスペースがありとてもきれいでした。
私が一番印象に残っているのはホテル内を案内してくれた担当

の方の言葉です。説明してくれた中に「体力・元氣・挨拶は絶対」とありました。これほどの職業でも役立つことだと思いました。やはり挨拶は大事だと思いました。

今回の企業見学で色々な所を見せて頂いて将来の夢や進路について考える、いいきっかけになったと思います。

サンリオ

三年桃組 田中 風香

私はサンリオオビエローランドの会社に訪問させて頂きました。初めての企業見学で「どういうところなんだろう」という期待する気持ちでいっぱいでした。いざ行ってみると最初は会議室でサンリオの始まった理由、最初の頃の様子、サンリオの名の由来など、私たちの質問の応答などを、色々話を聞かせて頂き、とても興味深く、飽きることありませんでした。話の最後にちよつとしたプレゼントもあり、とても嬉しかったです。

次にサンリオのグッズを見学し、ふだん見ることができないような場所にも行かせてもらい、とても充実した一日になりました。グッズはキャラクターによってたくさん種類があり、見ていてとても面白かったです。

今回の企業見学でサンリオについて、今まで知らなかったことをたくさん知ることができとても良かったです。

西武池袋本店

三年栗組 大城 ひなた

私は今回の企業・職場見学で西武池袋本店を見させて頂きました。一時間二十分という短い時間の見学でしたが、今まで知らなかったことをたくさん勉強することが出来ました。その中でも特に二つの事が印象に残っています。

一つ目は電話交換室についてです。ここには二十台ほどのパソコンがあり、そのパソコンからお客様の電話を受け取ることが出来ます。一日平均約千件の電話があり、多い時には約千二百件の電話がかかってくるそうです。また一日の中で一番多く電話がかかってくるのは朝だということも知ることが出来ました。

印象に残っている二つ目はコンシェルジュの仕事についてです。コンシェルジュはお店の案内、アテンド、お客様からの相談と大きく三つの仕事があります。私はこの中の「アテンド」に興味を持ちました。この仕事は身体の不自由な方、年配の方の助けをする仕事です。足が不自由な方が高いところにある商品を取れなかったら取ってあげる。耳が聞こえない方には紙に書いたり、手話を使って伝えてあげる。年配の方と歩く時は歩く速度をあわせる。などなどお客様の事を考えながら手助けをするお仕事だそうです。

今回このような話を聞いてみて、この西武池袋本店でお仕事をされている方々は、ただ商品を売っているのではなく、来店されたお客様がどうしたら、快適に楽しくお買い物ができるのかということまで考えていることがよく分かりました。今後、自分がこの百貨店を訪れる時には今回教えて頂いたことを考えながら、利用したいと思えました。

日本医科大学付属病院

三年栗組 大澤 千紘

私は企業見学で日本医科大学付属病院に行きました。この病院は日本で初めて救命救急センターを開設した病院だそうです。この病院は所々、バリアフリーになっていました。廊下にはボランティアの人が立ち、ほとんど段差がありませんでした。この病院を見学した中で私の心に残っているのは入院患者さんへの対応です。

「ナースコールを鳴らさない看護」というのがこの病院の看護の原点だそうです。常に患者さんに気を配り、患者さんがナースコールに手を伸ばす前にトイレに誘導したり、「他に何かありませんか」などの声をかけ、患者さんの話をじっくり聞いたりほんの少しの気づきを看護に結びつけることで、ナースコールの回数を減らしているそうです。だいたい患者七名に対して一名の看護士さんが付いている、患者さんがたくさんいるのに患者さんを第一に考え、患者さんの気持ちにもこたえていて、すごいなと思いました。病院のお医者さんでも大事だけれど看護士さんでも大事な仕事をしていて患者さんにとって大切な存在でもあるのだなと思いました。人とのコミュニケーションはどの状況でも欠かせないとお話されていたので誰とでもコミュニケーションが取れるようになりたいと思いました。



運針との縁はほど遠いと思っていた

三年菊組 嶋田 楓月

前置きとして、私は裁縫が得意ではありません。ではなぜ運針競技会で一位を取れたのだと思いますか。なぜでしょう。自分でも良く分かりません。ただ入学した時から少しずつ習ってきた通りに縫って、今回もひたすら無我夢中で縫ったのが努力として結果に出たのでしょうか。去年、私が中二の時に初出場して、二位を取ることができ、来年は一位をとるぞとやる気があったからでしょうか。一位をとることができたことは謎です。

十五分間の中でどれだけ縫おうか。とり合えず六本を目指し縫い始めました。ところが思ったように縫えず、苦戦する場面も多々ありました。考えていたペースとは遠くなり、焦って深指に針をさしてしまいました。それでも「気にしていられない！」と軽く血を流しながらも縫い続けた私はどれだけ必死だったのでしょうか。人は大事な場面になると、焦らず冷静に思うのですが、つい内心は焦ってしまいますから、冷静に着実にこなす力が欲しいと思います。

今回の運針競技会で一位という順位を付けてくださったありがとうございます。少しずつ上手くなっていきます。



